

# 平成28年度 社会福祉法人 福寿会 事業報告

## 社会福祉法人福寿会の事業の経過

平成28年度は、社会福祉法制度改革に伴う制度の見直しを着実に進めてまいりました。経営組織のガバナンスの強化、事業運営の透明性の向上、財務規律の強化、地域における公益的な取組を実施する責務、行政の関与の在り方等、社会福祉法改正に従って、現在も粛々と進めております。

法人の根幹ともいえる定款の改正（平成29年4月1日施行）についても十分に準備し12月1日の理事会において承認を得て、以降、新しい評議員体制を選任いたしました。また、新たに顧問税理士を迎えたことで、制度改革全般の指導を仰ぎ、平成29年度に向けての手続きをスムーズに進めることができました。

昭和57年創立の平城園の老朽化に伴う建替え工事につきましては、「平城園新築工事」に向けての建築会議を、9月3日より定期的（33回）に開催（別添参照）し、設計監理事務所を中心に法人役職員で、基本計画の作成等を着実に進めてまいりました。平成29年度の本工事に向けての準備体制としては、順調に進めていくことができました。

各事業所につきましては、ならやま園は、活動収益の前年度比は101%とかなりの収益増となっておりますが、平城園は97%と前年度を大幅にダウンいたしました。建て替えに伴う改修等により、特養は安定的な入退所の手続きができなかったことや、奈良デイサービスの営業不振、居宅のケース数の減少等が大きな原因となっております。平成29年度は、隣地で営業をしながらの建替え工事となりますが、無理はしないように、しかし、できる限り各種サービスをご利用いただけるよう配慮していきたいと考えております。また、入所者、ご利用者、近隣の皆様にご迷惑をかけぬよう最善の注意を払っていききたいと思っております。

また、人材育成のための施設内研修（OJT）につきましては、両施設とも積極的に研修委員会が活動いたしました。特に、利用者の人権を尊重した質の高いサービスを提供するため、虐待防止の研修に力を入れ大きな成果をあげることができました。施設外研修（OFF-JT）につきましても、機会があればできる限り積極的に参加させるよう努めました。結果として、職員のモチベーションの向上に繋がったように思います。

平成28年12月から、奈良県におきまして、福祉・介護人材の確保を図ることを目的として、「奈良県福祉・介護事業所認証制度」の運用が開始されました。これは、職員の人材育成、処遇向上等につながる6分野20項目の認証評価項目を設定し、これを県が審査し、基準をクリアした事業所を知事認証し、公表する制度です。この制度運用で、福祉・介護事業所における人材育成の取り組みや就労環境等を公表することで、学生や求職者の方が、安心して応募、就職できるとともに、福祉、介護事業所の意識改革や職員の就労環境や処遇等の向上を図るものです。

福寿会は、平城園、ならやま園とも積極的にこの認証制度に認証申請し、書類審査、現地調査の結果、認証基準に満たしているとして、平城園4事業所（特養・デイ・ヘルプ・居宅）、ならやま園5事業所（特養・ショート・デイ・ヘルプ・居宅）の計9事業所に『認証書』を頂戴しました。今後とも、認証事業所として、人材育成や就労環境等の向上に努めてまいります。

また、平成28年度は、地域ニーズに即した新規事業への積極的な参入を考え、奈良市の地域包括のプロポーザルに果敢に挑戦しましたが、残念ながら志半ばで諦めざるを得ませんでした。今後も機会があれば、事業参入に向けて積極的に考えていきたいと思っております。

## 【部門別事業報告】

特別養護老人ホームならやま園 （定員 84 名）

### ○介護部門

#### （1） 介護職員の人材確保・育成・定着

平成 28 年度も介護職員の人材確保・育成について力を入れてきた。副園長、リーダー長、リーダー、相談員との面接を重視し、介護職員の夢や悩みについて話し合いを行い、介護職員が意欲的に、楽しく仕事を続けていけるように職場環境を整えている。前年度に引き続き、退職する職員がほとんどいなかったことを嬉しく思っている。今後も離職を無くし、利用者へのサービス向上を目指したい。

#### （2） 地域との連携強化

地域のボランティア、実習生の受け入れを積極的に行ってきた。内外の居宅介護支援事業所とも連携し、地域で介護にお困りの方の相談にのっている。また、施設内の消防訓練では地域の方も招き、消防の意識の共有を図る良い機会となっている。今後、起こりうる最大級の災害に備えて、地域の方とも連携を行って行きたい。

#### （3） 委員会活動への積極的な参加

「研修」「危機管理」「感染症」に加えて、ケアプランの適正化に取り組んできた。認知症があっても「その方らしい」生活ができるようなケアプラン作りが行えるようになってきている。今後は新たに大規模災害への対策を構築できる委員会を立ち上げて、利用者、家族、地域の方の安全を考えて行きたい。

在園年数（H29.3月現在）

単位：人

	1年未満	1年～ 3年未	3年～ 5年未	5年～ 7年未	7年～ 10年未	10年以上	計
男 性	5	2	4	1	0	0	12
女 性	12	25	19	2	9	5	72
合 計	17	27	23	3	9	5	84

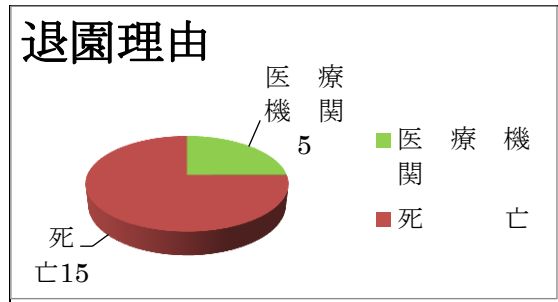
入所者年齢構成（H29.3月現在）

単位：人

区分	65歳～ 70歳満	70歳～ 75歳未満	75歳～ 80歳未満	80歳～ 85歳未満	85歳～ 90歳未満	90歳～ 95歳満	95歳～ 100歳未満	100歳 以上	合計
男 性	2	0	0	4	5	0	1	0	12
女 性	0	0	3	9	27	19	10	4	72
合 計	2	0	3	13	32	19	11	4	84

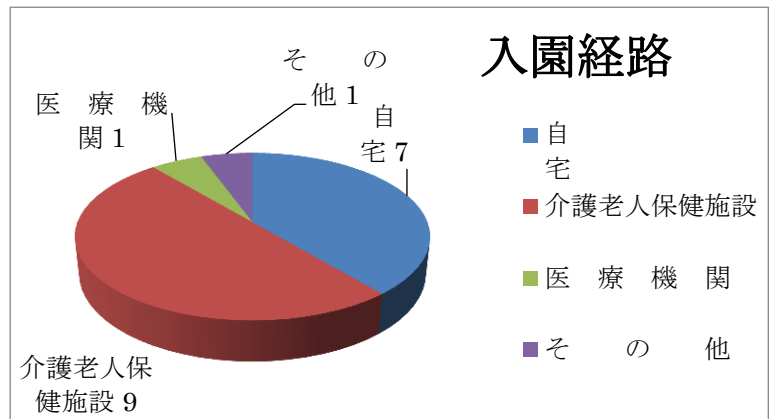
最低・最高年齢 (H29. 3. 31 現在)

	最低年齢	最高年齢	平均
男性	65 歳	95 歳	82.2 歳
女性	76 歳	102 歳	89.4 歳



入退園の状況 (年間)

	性別	年間合計
新規入居者数	男性	6 人
	女性	12 人
退去者数	男性	6 人
	女性	14 人



入園者介護度別延べ人数 (従来型)

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	介護度平均
28 年度	0	0	4,312	5,945	8,931	19,188	4.14
27 年度	0	187	4,729	5,940	8,540	19,396	4.17

入園者介護度別延べ人数 (ユニット型)

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	介護度平均
28 年度	0	0	3,649	3,611	3,340	10,600	3.96
27 年度	0	153	2,905	4,187	3,065	10,310	3.98

入園待機者状況 (29. 3. 31 現在)

単位：人

区分	合計	待機場所別					待機期間別				
		在宅	病院	老健	養護	その他	1～6 月	6～1 年	1 年～	その他	
県内	市内	178	100	33	30	1	14	12	28	138	0
	市外	25	7	5	10	0	3	1	0	24	0
県外	29	10	5	11	0	3	4	3	22	0	
合計	232	117	43	51	1	20	17	31	184	0	

## ○医療・看護部門

### (1) 感染症対策の充実

今年度は、12月に1名（既存2階利用者）、1月に10名（既存2階利用者、ショートステイ利用者・退園者含む、職員）がインフルエンザA型を発症、3月に3名（既存3階利用者）がインフルエンザB型を発症した。

発症者が出ると即日対策会議を行い、隔離体制や職員の行き来の制限、家族への面会自粛の案内、毎日のフロア毎の利用者の状況報告等話し合い、各部署間での連絡協力を徹底した。感染者が多数出た原因は、早期の隔離が不十分だったこと、発症者と食事席が隣接している利用者の隔離が後手になり、順番に感染していったことが考えられる。

また、「出勤したら手洗い、配膳・食事前に手洗い、退勤前に手洗い」を習慣付けることを目標にしたが、十分に浸透しなかった。今後は、手洗い・加湿・換気を業務の中に組み込み、毎日当たり前に必ずできるようにすること、そして、感染症発症時には早期決断ができるようにしていきたい。

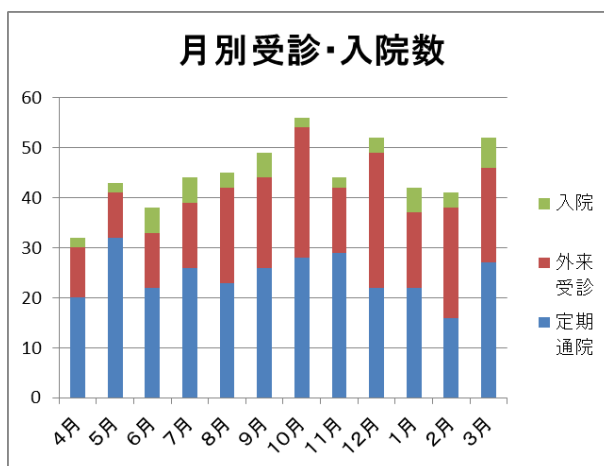
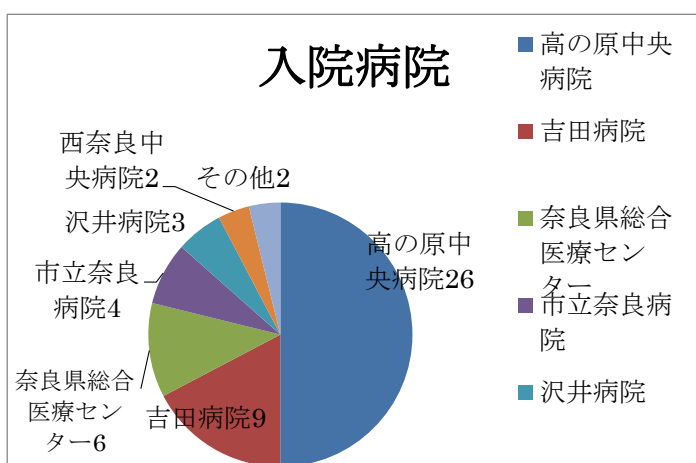
### (2) 職員の健康管理

メンタルヘルスチェックが義務付けられ、ならやま園では112名中56名が受検した。結果は糊付けした封書にて個人へ通知した。

健康診断は、夜勤者は2回/年、その他の職員は1回/年行い、保健指導が必要な職員は医師より指導があった。

### (3) 利用者の健康管理

基礎疾患をもち、医療機関の定期外来通院者は24.4名/月と昨年度と横ばいであった。入院者数は延べ43名で昨年度と大きな変動はなかった。入院病院は、高の原中央病院が26名と半数を占め、近隣の医療機関に依頼することが多くなっている。



## ○個別機能訓練部門

今年度も利用者の機能維持、減退予防が図れるよう定期的に理学療法士の指導を受け、心身状態に応じた個別機能訓練計画書を立案することができた。また、日々の利用者の状態を把握すると共に、理学療法士の指導、評価を職員間で共有し継続的に訓練、援助に活かす事ができた。

機能訓練状況（介護職員担当の生活の中での活動を含む 平成 29 年 3 月 31 日現在）

	既存 2F	既存 3F	ロータス和	ロータス悠
集団体操	19	12	10	10
歩行訓練	13	7	9	10
立位訓練	10	10	3	6
筋力増強訓練	10	10	7	9
体重移動訓練	5	1	1	3
離床	3	9	6	2
滑車	0	9	設置なし	設置なし
車椅子自操	6	3	1	4
関節可動域訓練	8	18	3	5
ポジショニング	4	13	6	1

○栄養管理部門

(1) 栄養ケアマネジメントの実施

多職種協働で個々の利用者の状況に対応した食事提供に取り組み、特養利用者全員に栄養ケア・マネジメントを実施できた。療養食の提供や新しい食事形態の設定も行うことができた。今後も利用者が健康を維持して頂けるよう取り組んでいきたい。

(2) 季節感のある食事や行事食の提供

誕生日食、好み食、選択食、行事食、おやつレクリエーションなども行い、家庭的で楽しみや変化のある食事の提供に努めてきた。好評であり今後も継続してしていきたい。

(3) 利用者の要望の把握と食事内容の向上

喫食状況を見たり会話をする中で、嗜好や食べ易さなどを把握し、献立内容に反映させるよう取り組んできた。配食サービスでは配食職員との連絡を密にし、内容の向上に努めてきた。ケアハウスで行った嗜好調査（満足度調査）では、平均 88.3 点と高評価を頂いた。今後も食事内容の向上に努めていきたい。

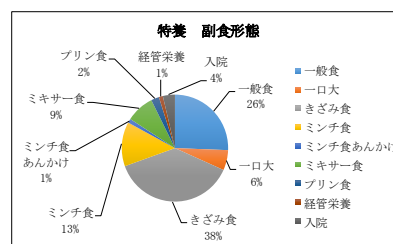
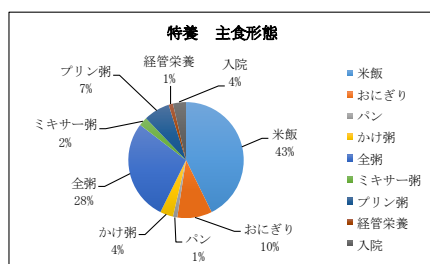
(4) 食中毒予防や感染症対策

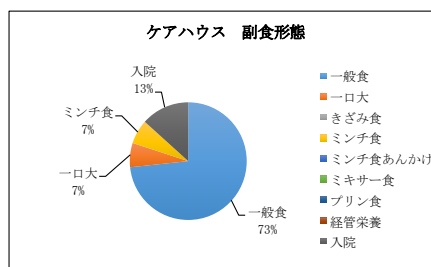
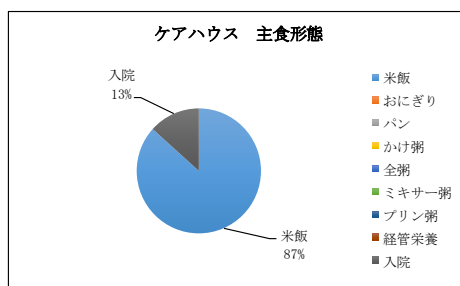
安全な食材の使用と大量調理衛生管理マニュアルに基づいた衛生管理に努めてきた。感染症対策委員会への参加や施設内研修を行い、施設全体での取り組みも行うことができた。

(5) 非常食・使い捨て容器の備蓄と危機管理

利用者 3 日分を備蓄している。賞味期限を把握し、献立に入れる事で無駄なく入れ替えを行うことができた。また、非常食使用時は利用者や職員に意識喚起を行った。

食事形態（平成 29 年 3 月 31 日夕食現在）





## ○ボランティア部門

ならやま園では個人、又はグループでボランティア登録をして頂き、定期的、不定期により活動をして頂いている。今年度は長く続けてくださっている方も多いが、年齢によりやむなく辞められた方もいた。利用者に楽しんで頂くために、新しいボランティアを募集し、活発に活動をして行きたい。

### 月別活動延べ人数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
28年度	124	132	156	138	130	135	144	188	110	110	123	133	1623
27年度	137	144	147	152	130	145	153	145	129	136	126	158	1702

	月平均	1日平均
28年度	135名	5.6名
27年度	141名	5.8名

## ならやま園ショートステイサービス (定員 16名)

H28年度は前年度に比べ、利用者数は減少したものの、1人あたりの利用日数が多かった事もあり、全体を通して前年を上回る実績で終える事が出来た。

### (1) 空きベッドの積極的な利用

空きベッドを積極的に利用し、各部署と連携を取りながら緊急の受け入れにも対応してきた。独居の方や高齢者夫婦など、在宅での生活が困難となるケースも多く、各事業所やご家族とも連携をとり、出来る限り受け入れできる体制を整えた。

### (2) 安定した利用確保

H29年1月下旬～3月にかけて、各フロアで感染症発症者が出た事で、ショートステイの受け入れを一時お断りする事があった。またショートステイご利用者も感染症に発症された方が多く、体調管理や状態把握に課題が残った。

### (3) 新規獲得、家族との連携

各事業者と密に連携をとり、新規利用の情報を収集し、利用に繋げてきた。また安定した利用に繋げる為、こまめに家族や各事業所とも連携をとり、ご利用者が安心して利用できる

### (4) 生活空間の提供に努めてきた。

年間稼働率・介護度別利用者数

	延利用 日数	稼働率	延利用者数	身 障	介護度別利用日数						
					要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
28年度	5649日	96.7%	441人	0日	0日	0日	157日	234日	1970日	2789日	499日
27年度	4934日	84.3%	450人	0日	0日	0日	109日	583日	1617日	1327日	1298日
増減	715日	12.4%	-9人	0日	0日	0日	48日	-349日	353日	1462日	-799日

ならやま園デイサービスセンター (定員 35名)

(1) 営業活動の強化について

体験利用料金を無料にして2年が過ぎ体験利用の問い合わせが以前に比べ増え、徐々にケアマネジャーへ浸透してきているように感じる。パンフレットや無料体験利用の案内等ツールにし、今後も沢山のケアマネジャーや利用者を知って頂くよう引き続き幅広く広報活動を行っていきたい。

(2) 選択肢のあるサービスについて

特に年齢層や性別に対し、余暇時間の過ごし方(雑誌のジャンルやパズル・塗り絵の種類や脳トレ等)を増やし、おひとりでも過ごして頂けるような環境も増やした。今後も利用者へ希望を聞き対応を検討していきたい。

(3) 職員の育成及び介護技術向上について

職員が色々な業務を覚えられるよう、担当業務を定期的にシャッフルした。今後も職員へは幅広い視野で支援出来るよう研修等を含め沢山の機会を設けて行きたい。

介護技術向上については利用者によって都度介助方法を作業療法士の助言を得て周知徹底している。

ならやま園デイサービス要介護度別利用者数								合計	営業日	平均/日
年度別	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	身障			
28年度	538	1,145	2,299	2,170	1,722	572	0	8,446	309	27.33
27年度	481	1,309	2,250	2,259	1,232	828	0	8,450	309	27.34
増減	57	-164	49	-89	490	-256	0	-4	0	-0.01

ならやま園ホームヘルプステーション

平成28年度当事業所においてはサービス提供責任者2名と非常勤ヘルパー11名での職員配置で事業を実施した。28年度は新規ヘルパーの登録はなく、辞めたヘルパーが2名いた。現在登

録しているヘルパーも定年退職の年齢に近づいており、新規ヘルパーの確保が大きな課題となっている。

(1) 利用者のニーズにあったサービス提供

登録ヘルパーによる利用者の状況の変化は、よく報告がなされており、受診、入院にと繋がり大事に至らなかったケースも多々あった。利用者のニーズにあったサービスの提供ができるよう関係機関との連携を密に行い、サービスの内容の変更や派遣時間、回数の変更等きめ細かく調整して緊急時や臨時利用にも対応してきた。

(2) 介護サービスの充実・向上への取り組み

- ・認知症を有する独居高齢者にふさわしいサービスの提供を行った。
- ・新規ケース、困難ケースの受け入れにも積極的に対応した。
- ・登録ヘルパーからの報告、連絡や訪問時の身体、生活状況の変化等、担当ケアマネジャーや各専門職種に報告、相談させて頂き迅速な対応を心掛けた。

今後もヘルパーの訪問を心待ちにしてくださるご利用者の為ニーズにお応えできるような支援を提供していきたいと考える。

訪問介護・介護予防延数

	介護	予防	計
28年度	4,724件	2,015件	6,739件
27年度	4,564件	2,144件	6,708件
増減	+160件	-129件	+31件

ならやま園居宅介護支援事業所

(1) 地域包括支援センターとの連携

介護予防ケアマネジメントに関しては平城、三笠、伏見、登美ヶ丘、京西・都跡、京丹後市と給付管理を伴う連携をおこなった。給付管理には至らないが必要に応じて各地域の包括支援センターとの情報共有に努めた。

(2) 居宅介護支援事業所としてのレベルアップ

継続して週1回、ケアマネージャー会議を行っている。平成28年度は48回開催し情報共有等に努めた。事業所外研修に関しても積極的に参加し情報共有に努めた。

(3) 地域活動の参加

前年同様、定期的に地域ニーズを把握出来るように決まった担当者が地域活動に参加することが出来た。定期参加(月1回程度)が4ヶ所、不定期参加(年3-4回)が1ヶ所、随時参加が数ヶ所と積極的に参加した。(定期1か所が地域の事情により平成28年度で終了)

(4) 介護ケアマネジメント

引き続き相談も多種多様化し、今までの概念では考えられない問題も生じている。自立支援と求められるケアマネジメントが一致しない情勢であるがケアマネジメントの根底にある利用者本位、利用者の持っている力を活用した生活の質の向上がケアマネジメントの中心であることを忘れず支援をおこなった。



(5) 居宅介護支援の適正化

引き続き、利用者や事業所との関わりの中で生じる疑問に対して確認を行い、週1回のケアマネジャー会議を中心に様々なルール確認をおこなった。平成29年度から開始される総合支援事業に関しても情報が少ない中、個別に奈良市に確認に行くなど情報収集に努めた。

(6) 認定調査

5名の認定調査員で対応。ケアマネジメントの質の向上の一つとしてケアマネジメント業務に支障が出ないと考えられる件数(月20件程度)を年間通しておこなうことが出来た。奈良市以外の調査に関しても依頼に応じて対応した

利用者延件数(ケアプラン作成)

	予防	要介護	計
28年度	722	1,955	2,677
27年度	718	1,873	2,591
増減	4	82	86

認定委託件数(市町村委託総数)

28年度 計	238
27年度 計	242
増減	-4

**ならやま配食サービス (奈良市委託事業)**

例年通り奈良市の委託事業としての配食サービスと、市のサービス受給条件を満たさない自費による利用者への昼食配達を2台の配食車で実施した(土・日及び12/31~1/31休み)

29年度からは新しく「福寿会配食サービス」として事業を展開して行く。今後も配達時に日々の変化を見逃さないように見守りを行い、関係機関と連携を取って行きたい。

(1) 配食サービス実施状況

・奈良市からの委託配食数 ・自費による配食数

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
市委託配食数	561	563	591	558	562	545	524	529	511	437	434	509	6,324 (前年比-1597)
自費による配食数	177	200	230	227	250	288	260	293	303	255	265	259	3,007 (前年比-4)
合計	738	763	821	785	812	833	784	822	814	692	699	768	9,331 (前年比-1207)
配食日数	21	22	22	21	23	22	21	22	22	20	20	23	259
1日平均配食数	35.1	34.6	37.3	37.3	35.3	37.8	37.3	37.3	37	34.6	34.9	33.3	34 (前年比-5)

(2) 奈良市よりの新規委託件数

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規 件数	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	4 (前年比-7)

(3) 利用者数（平成 29 年 3 月 31 日現在配食者数）

- ・奈良市委託分 31 名（前年比 -7 名）
- ・自費 24 名（前年比 +4 名）

ケアハウスニューライフならやま（定員 15 名）

地域活動に参加し入居者様ひとりひとりの思いを尊重しつつ、身体面・精神面の観察を重視し不安無く生活して頂けるよう心がけた。入居者様の介護サービスを利用される方も増えている。今後もケアハウスでの生活を安心して過ごして頂きたい。

介護度（平成 29. 3. 31 現在）

	自立	要支援	介護 1	介護 2	介護 3	合計
男 性	0 名	1 名	0 名	0 名	0 名	1 名
女 性	2 名	5 名	3 名	4 名	0 名	14 名
小 計	2 名	6 名	3 名	4 名	0 名	15 名

特別養護老人ホーム平城園（定員 110 名）

○介護部門

(1) 基本理念の具現化

基本理念である「利用者の人権を尊重する」「利用者の自立を支援する」「老いの心を癒す」の具現化を図ることを目標に職員が個々にご利用者一人一人の生活に寄り添い、日常生活においても生活リハビリを中心に自助能力を高める為の支援を行った。

(2) 個別ケアの実践

画一的な援助とならないよう、ケアカンファレンスにおいては利用者、家族、支援者間での細かな話し合いを実施し、サービス計画を作成し、その方に応じた個別なケアを実践することができた。

(3) 根拠に基づいたケア

自立を支援する取り組みの一環として取り組んでいた、根拠のあるケアの実践（水分摂取、オムツ外しの取り組み）も委員会を中心に特養全体として取り組みを行い、経験則的なケアからの脱退を図ることに重点を置き、一定の成果を挙げる事ができた。

在園年数 (29.3.31 現在)							※29年3月31日時点で空床5床有り	単位：人
	1年未満	1年～ 3年未満	3年～ 5年未満	5年～ 7年未満	7年～ 10年未満	10年 以上	合 計	
男性	9	6	6	3	0	0	20	
女性	23	23	33	20	6	3	85	
合計	32	29	39	23	6	3	105	

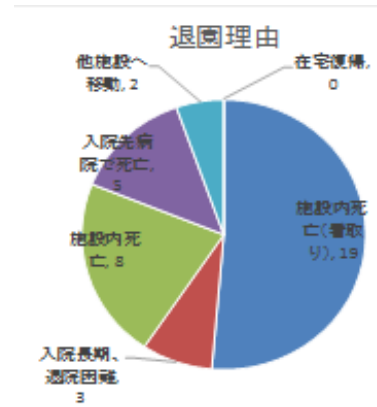
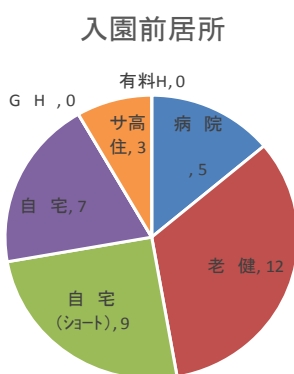
入所者年齢構成 (29.3.31 現在)								※29年3月31日時点で空床5床有り	単位：人
	65歳～ 70歳未満	70歳～ 75歳未満	75歳～ 80歳未満	80歳～ 85歳未満	85歳～ 90歳未満	90歳～ 95歳未満	95歳 以上	合計	
男性	1	5	5	3	5	1	0	47	
女性	1	8	6	15	24	16	15	85	
合計	2	13	11	18	29	17	15	105	

入園者介護度別延べ人数 (29年3月31日現在)							
年 度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合 計	介護度平均
H27年度	213	1,391	8,629	16,074	12,222	38,535	4.0
H28年度	365	1,595	10,081	14,896	11,137	38,104	3.92

入園待機者状況 (29年3月31日現在)									単位：人
	合 計	在 宅	病 院	老 健	養 護	その他	6ヵ月 未満	6ヵ月 ～1年	1年 以上
県 内	160	78	30	25	0	27	26	15	119
県 外	21	6	4	8	0	2	6	3	12
合 計	181	84	34	33	1	29	32	18	131

最低・最高年齢（29.3.31 現在）			
	最低年齢	最高年齢	平均
男性	59 歳	92 歳	78.5 歳
女性	68 歳	103 歳	86.6 歳
計	59 歳	103 歳	85.0 歳

入退園の状況（年間）		
	性別	年間合計数
新規入居者数	男性	9 名
	女性	23 名
退去者数	男性	8 名
	女性	29 名



## ○看護部門

目標：利用者の人権を尊重し「安全・安心」「納得・信頼」のある看護を提供する。

### (1) 利用者の健康管理と異常の早期発見に努める。

介護職員との連携を密にして異常の早期発見と、利用者の変化は速やかに医師に報告し、指示のもと健康管理に努めた。又基礎疾患を有する利用者が多く、一人が複数の科を受診するケースもあり、医療機関への受診は 792 件(定期通院・健診レントゲンを含む)、入院は 44 名(定期的胃瘻交換も含む)だった。(表 1 と 2) 医療的ケア(痰の吸引・経管栄養)の研修については、本年度 4 名の介護職員に対し指導看護師による実地研修を行った。

### (2) 感染症の対策

11 月末に東棟より風邪症状の利用者が増え感染症対策マニュアルに基づき対応した。昨年度の教訓を生かし、迅速に感染フロアの閉鎖を実施、感染拡大防止に努めた。利用者インフルエンザが発症することは無かったが、職員やその家族には罹患があったため 1 月は各棟間の利用者や職員、ボランティアの交流を中止し拡大を防ぐことが出来た。昨年度に引き続き、奈良市保健所主催の感染症対策の研修会には定期的に参加しており、職員の手洗いのアンケートを実施後評価し、課題や今後の取り組み等についても、感染対策委員会を中心に取り組むことが出来た。

### (3) 利用者・ご家族の納得いただける看取り介護の提供

本年度園で亡くなられた方は 22 名(前年度 16 名)、うち看取り介護を受けられたのは 19 名(前年度 12 名)と、園での看取り介護を希望されるご家族は年々増えている。ご家族からは、常勤医師による説明や診療所での対応に安心されている事や、職員の丁寧な説明や対応に納得いただけているとお言葉もいただいている。偲びのカンファレンスが今年度はあまり実施できていなかった。貴重なご意見をいただける場であり、ケアの振りかえりや今後のケア向上に繋げることができるよう来年度はしっかり実施していく。

表1 <利用者の受診・入院状況>

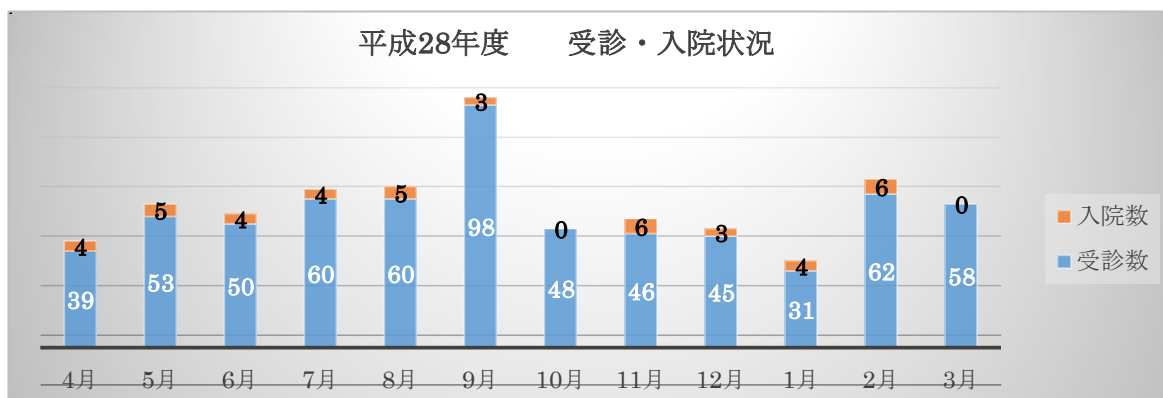
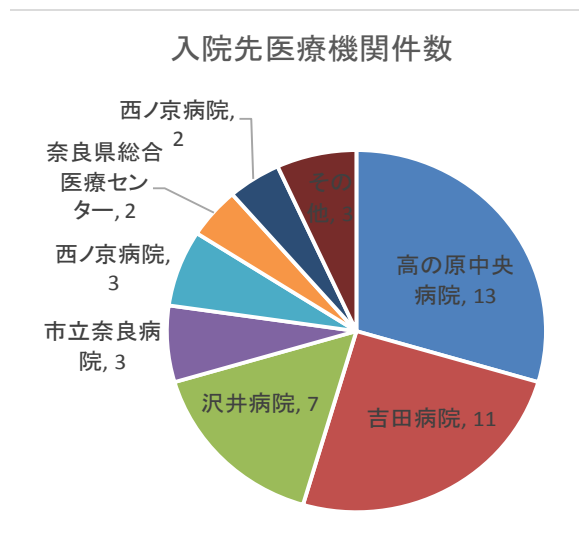


表2 <入院医療機関>



○個別機能訓練部門

(1) リハビリ室での訓練やフロアでの生活リハビリの充実を図る。

リハビリ室での訓練をフロアで活かすことがなかなかできなかった。年末から感染症対策としてリハビリ室での訓練を中止し、3/10以降はフロアでのリハビリに変更となった。フロア単位で行っているが、週1~2回の訪問なので下肢筋力の低下が目立ってきているのが現状である。毎日の生活リハビリの継続で今後は対応していきたい。

(2) 離床・臥床時の安全で安楽な良肢位の保持に努める。

離床時の座位保持が、上手く出来ずずれていたり、車椅子の不備があったりしたが、都度申し送りを行い対処した。臥床時はワーカーの協力を得て、クッション等で安楽な体位の保持に努めた。

(3) 個別機能計画書に沿った実践

計画書は3か月毎に作成し、入・退院や状態変化時は都度見直した。月1回の理学療法士訪問時に指導を受け実践した。

	機能訓練室				ベッドサイド（居室）				合計（人）
	一階	中央棟	西棟	東棟	一階	中央	西棟	東棟	
27年度	4,005	4,317	5,534	5,210	1,192	911	381	254	21,804
28年度	3,816	3,841	4,967	4,615	893	741	605	103	19,220

## ○栄養管理部門

### （1）観て楽しめる食事の取り組みについて

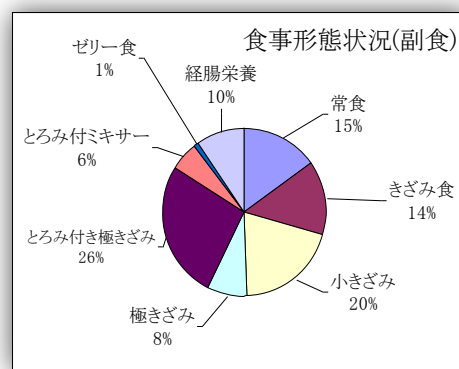
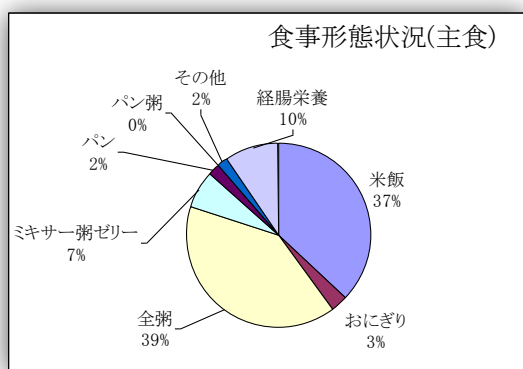
旬の食材を盛り込んだ行事食、お誕生日食、選択食等の実施により、季節の移り変わりや生活の中に変化と楽しみのある食事を提供できた。又、利用者に適した食事形態や個人の嗜好・療養状態に配慮し、心身の満足と栄養状態の改善に取り組めた。

### （2）栄養ケアマネジメントの実施

介護部門、看護部門との連携により、一人ひとりの身体状況に適した食事の提供と共に、カンファレンスの中で入園者又は家族の要望や同意を得る事により効果的な栄養ケアマネジメントが実施できた。

・経口維持加算 28年度実施状況（平均人数6名 5.6%）

### ・29年3月 食事形態状況(個別対応)



## ○ボランティア部門

今年度も多くの方に活動いただいたが、前年度より減少した。又平成28年12月にはボランティアと職員の交歓会を実施し様々な貴重なご意見を頂戴することができた。特養の新築工事に伴い3月途中からボランティア活動を一旦休止し、3月末時点では活動休止となっている。ボランティアの方からは残念とお言葉もあったが、施設が新しくなった折には再度活動したい、といったありがたいお言葉も頂くことができた。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
27年度	288	328	380	346	311	428	369	335	325	307	97	362	3876
28年度	313	311	389	358	379	358	344	336	313	218	315	150	3784

	月平均	1日平均
27年度	323名	10.8名
28年度	315名	10.5名

### 平城園ショートステイサービス（定員3名）

通常ショートステイ枠(3床)の稼働率は前年よりも改善し、30%程アップした。ただ、新規利用の問い合わせ等も多数あったものの、ベッド数も少ないことから、ニーズに沿うことが難しく、継続利用に繋げることが難しかった。

次年度は、新築工事に伴い通常ショート枠(3床)は稼働しないが、入院・退園空床を利用した緊急ショート等には可能な限り対応していきたい。

### 奈良デイサービスセンター（定員25名）

#### (1) 新規利用者の確保

前年度に引き続き、実績報告・挨拶等を兼ねて他事業所への営業活動、及び平城園居宅介護支援事業所との情報共有を密に行った。毎月1～3件の新規利用者は確保できたが、それ以上に入院や施設入所からの中止の方もあり実績としては減少傾向にあった。

#### (2) 職員育成の強化

外出やカラオケ、創作活動など、利用者の活動充実を図ることができた。また、あすなろ通信への掲示を通してサービスの見える化に努めた。

#### (3) 顧客満足度の向上

利用者の声を聴き、都度可能な限り対応。また絵手紙などの教室や慰問、外出等概ね満足頂くことが出来た。職員の対応力に関しては、情報の共有や根拠・原因の理解を促し、向上に努めた。

年度別	要支援	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	障害	自費	合計	営業日数	平均/日
28年度	411	479	2214	1134	349	263	34	0	4884	308	15.85
27年度	681	913	1960	1289	488	537	78	43	5989	309	19.38
増減	-270	-434	254	-155	-139	-274	-44	-43	-1105	-1	-3.53

### 平城園ホームヘルプステーション

地域包括支援センターや居宅介護支援事業所との連携を深め、信頼関係の構築により、地域に根ざしたサービス提供ができるよう努力し、新規利用者の獲得にも努めた。

また研修の実施や参加により、サービスの質の向上に向け努力をした。ヘルパーとのつながりを密に、利用者それぞれのニーズに対応することが出来た。

#### 訪問介護・介護予防延数

	介護	予防	計
27年度	5767件	2923件	8690件
28年度	7072件	2473件	9545件
増減	1305件	-450件	855件

※生活管理指導員派遣 48件 障害自立支援事業 275件

## 平城園在宅介護支援センター

平成 28 年度は、平城園居宅事業所としての専門性を高め、介護サービスの質の向上と信頼性のあるマネジメントで評価を下げないように努力してきた。

- (1) 介護予防マネジメントについては、「特定事業所集中減算」減算もなく各担当者がチームとしての連携を取りながら、適正化に努めることができた。
- (2) ケアプラン件数に関しては担当者の人事異動等による減少となった点、今後新規開拓へ努力が必要である。
- (3) 地域包括支援センターとの連携については、平城、二名、登美ヶ丘、富雄、伏見、京西、都跡との予防マネジメント等において情報の共有に努めた。
- (4) 居宅事業所として組織マネジメントについては、人材育成も含めた職場の環境作りに取り組むことで、個々の能力が発揮出来つつある。

利用者延件数(ケアプラン作成)

	予防	要介護	計
27 年度	456	1646	2102
28 年度	361	1502	1863
増減	-95	-144	-239

認定委託件数 (奈良市委託)

27 年度計	174
28 年度計	133
増減	-41

## 平城園配食サービス

例年通り奈良市の委託事業としての配食サービスと、市のサービス受給条件を満たさない自費による利用者への昼食配達を 2 台の配食車で実施した。(土、日及び 12/31~1/3 休み) 障がい福祉課の配食サービス打ち切りの影響もあり、奈良市からの新規委託は殆んどないため、自費による利用者の増加に積極的に努めたところ年度末に食数が急に伸び始めた。利用者には季節の食材を盛り込んだ献立、安否確認のための配達員の声掛けや不在時の緊急の対応、メニューに添えた四季折々の歳時記と挿絵が喜ばれた。平成 12 年度に開始した平城園配食サービスは今期を持って終了する。29 年度から新しく「福寿会配食サービス」としてスタートするにあたり、スムーズな移行を期して利用者にご丁寧にご了解をお願いしたところ全員に快くご理解をいただいた。

### (1) 配食サービス実施状況

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
市委託配食数	523	558	579	522	567	523	488	471	462	395	370	375	5833 (前年比 -1597)
自費による配食数	97	95	130	129	142	139	100	108	113	175	189	238	1655 (前年比 +390)
計	620	653	709	651	709	662	588	579	575	570	559	613	7488 (前年比 -1207)
配食日数	21	22	23	21	23	22	21	22	22	20	20	23	260
一日平均配食数	30	30	31	31	31	30	28	27	26	29	28	27	29



(2) 奈良市からの新規委託件数

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新規委託件数	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	4
													(前年比 -5)

(3) 利用者数（平成 29 年 3 月 31 日現在配食者数）

- ・奈良市委託分 33 名（前年比 -4 名）
- ・自費分 18 名（前年比 +7 名）

ヴィラ秋篠

奈良市下においても、サ高住や住宅型有料老人ホームの開設が進み、介護付き有料老人ホームを含め特養の待機者がそれらの施設に入所されるケースが増えた。

住み替えを検討される方は、心身面に不安を抱えていることが起因となっており、現時点で必要はなくても介護付きという安心を選ばれるケースが増えている。こうした状況に対応するため、入居相談時点でヴィラ秋篠のコンセプト通りの希望者であるかの分別をきっちりし、該当の方には継続調査を、非該当の方には入居該当になるための条件提示や、形だけの待機者リストを作らないように努め、営業ロスを防いだ。

結果、完全入居率 100%を 2 年連続で達成することができた。しかし、入居希望者の介護度は年々高まり、また既に入居されている方々の介護度も高くなっていくことから、福寿会事業所間におけるスムーズな連携や、ヴィラ秋篠において生活を長らえて頂くための工夫などもこれまで以上に必要になると思われる。

・月別入居契約数（1 日締め）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	H29.1	2	3	平均
契約戸	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46	46
契約率	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

- ・年度内退去者 13 件（13 名）・・・ 男性 3 名 女性 10 名  
退去先内訳 ・福寿会特養 4 名 ・病院 3 名 ・在宅復帰 1 名 ・老健 1 名  
・館内移動（居室変更） 3 名 ・その他 1 名
- ・年度内契約者 13 件（13 名）・・・ 男性 3 名 女性 10 名  
契約動機内訳 ・福寿会関係者紹介 3 名 ・他法人事業所（居宅等）紹介 4 名  
・包括紹介 2 名 ・その他 4 名
- ・契約者数内訳：人

性 別	契約数
男性	12
女性	37
合計	49

・年代別内訳：人（重要事項説明書に基づく）

平均年齢 86.3 歳

性\年代	60 歳未満	65 歳以上 75 歳未満	75 歳以上 85 歳未満	85 歳以上	合計
合計	0	0	20	29	49

・介護度別内訳：人

平均介護度：支援 2

性\度	自立	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	合計
合計	11	4	5	10	9	8	2	0	49

・福寿会在宅部門利用者数

内訳 ・居宅・・・20 名 ・訪問・・・24 名 ・通所・・・10 名

・食事 契約者数・・・39 名 自炊者・・・10 名

・食事提供数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	H29. 1	2	3	合計	月平均	日平均
朝食	739	688	701	659	634	607	593	651	647	707	715	708	8049	670	22
昼食	755	708	702	695	684	696	655	691	661	758	711	718	8434	702	23
夕食	1049	987	1002	937	978	942	891	1011	951	1034	1017	972	11771	980	32
月合計	2543	2374	2405	2291	2296	2245	2139	2353	2259	2499	2443	2398	28254	2354	77

・生活相談件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	H29. 1	2	3	合計	平均
件数	147	131	112	125	123	115	130	173	174	153	167	133	1683	140

・健康相談件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	H29. 1	2	3	合計	平均
件数	9	5	0	6	4	4	3	2	1	1	4	5	44	3

・有償サービス利用件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	H29. 1	2	3	合計	平均
件数	216	216	160	86	146	123	136	162	171	156	151	134	1857	154

・入居活動件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	H29. 1	2	3	合計	平均
営業	18	15	13	36	15	28	17	35	46	27	24	24	298	24
問合せ	7	15	7	12	12	14	8	7	5	9	10	8	114	9
見学	14	8	8	4	8	5	6	6	9	7	5	4	138	11
見学者	18	10	12	6	11	10	10	12	20	13	8	9	139	11
入居相談 面接	8	7	8	11	7	12	6	6	8	7	8	6	94	7

・イベント実施報告

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	H29. 1	2	3	合計	平均
実施数	19	24	16	17	22	19	21	23	22	16	22	19	240	20
参加者	157	75	131	125	154	131	166	187	150	147	193	149	1765	147

・生活支援バス利用者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	H29. 1	2	3	合計	平均
西大寺	41	43	44	48	48	40	41	43	46	46	48	31	519	43
高の原	39	35	34	29	42	42	41	37	45	35	33	42	454	37
買い物等	56	58	58	67	70	62	63	64	60	69	56	49	732	61
合計	136	136	136	144	160	144	145	144	145	150	137	122	1705	142

平城園診療所

診療所医師を中心に、特養医師、医務との連携を図り診療受診数は全てにおいて増加した。又、今年度より実施した“ストレスチェック”においても衛生管理者との協力のもと混乱することなくスムーズに行うことができた。

受診者数

(単位：人)

	利用者	法人職員	地域住民	合計
27年度延人数	6,571	184	479	7,234
28年度延人数	6,870	216	533	7,619

【委員会活動報告】

○ ならやま園

(感染症委員会)

毎月一回、理事長、看護師、栄養士、各部署の職員が集まり、利用者様と職員の健康状態についての報告や感染症の情報交換を行った。委員会として毎月目標を掲げ、各部署内に掲示す

ることで、感染症に対する意識を高めている。

今年度は利用者にインフルエンザが発症し対応に迫われたが、発症が確認されてからは、毎日、状況を確認し感染が拡大しないように努めた。今年度の経験を必ず、来園度に活かせるように、見えた課題については対策を講じている。様々な感染症が報告される中で、通年を通して意識していくことが必要かと考えている。

毎月の会議の中で、結核、ノロウイルス、带状疱疹、結膜炎、水虫の勉強会を行った。利用者の命、健康を守るために今後もしっかりと対策を講じて行きたい。

#### (危機管理委員会)

毎月1度、各部署から担当の職員が集まり、事故の報告、対策について話し合いを行っている。転倒や疾病、内出血など日々の対応について、今後、起こらないように小さなことから発見できるように啓発に努めている。委員会のだけで完結しないように、ワーカー会議の中で対策を話し合い、職員全員で検討できるように研修を行った。様々なリスクが考えられる中で、徐々に職員の事故に対する意識が高まってきていることを嬉しく思う。

今年度も6月と10月に防災訓練を行った。6月には夜間の火災を想定に、10月には昼間の想定で行っている。限られた職員数の中でいかに利用者を守れるか、「どこに」「だれに」連絡をし、だれが指揮を取っていくのか。今後、起こりうる大規模災害に備えてまだまだ課題を感じたが、利用者が安全に暮らしていけるように対策をしっかりと講じて行きたい。

#### (研修委員会)

毎月1回のミーティングを行い、施設内研修の計画を実施した。特養においては4月に新卒の職員、11月に中途採用の職員が入職し、プリセプター制に基づいて指導を行った。この2年間、新人職員が退職することがなく、技術面だけでなく、精神面のフォローにも繋がっている。

今年度は中堅職員研修の内容を見直し、他部署を含めて3日間の時間を取った。職員からも好評で「自分の介護を見直す、良い機会となった。」と前向きな言葉も聞かれた。今回行った他部署研修には他の職員からも要望が多く、来年度についても積極的に実施していきたい。

法人全体・園全体では、AED・交通安全研修・防災訓練・セクシャルハラスメント防止・感染症・食中毒の研修等を行った。法人内、園内で研修を行うことにより、職員の交流の場となり、より強力体制が構築できたように思う。

来園度も職員の学ぶ意欲を高め、仕事に対するモチベーションの向上と、利用者へのサービスの向上を目指して活動を行って行きたい。

### ○平城園

#### (感染症対策委員会)

冬季におけるインフルエンザ及び感染性胃腸炎（ノロウイルス）対策として、職員出勤時の手洗い励行・マスクの着用の徹底を行なった。また職員家族等に風邪症状等がある場合は事前に連絡相談を徹底し、場合によっては出勤を控える等の対応を行なった。

また施設内の環境においても、適度な加湿及び換気、消毒等徹底し大規模な感染を防ぐことができた。

(リスク対策委員会)

毎月の定例会議にて、各フロアのインシデント、アクシデントの報告及び検証を行い事故の再発に努めた。また大きな事故には繋がらなかったものの、利用者の中には自力で施設外へ出てしまう方もおられ、都度対策を行なったが課題も残った。

(研修委員会)

職員の質の向上を目的とし、施設内研修並びに法人研修も積極的に実施した。また、幅広い職層、職種にむけて外部研修へ派遣し、施設全体としてのケアの底上げ、個々の知識・技術の研鑽に努めた。

平成 28 年度実習生受け入れ状況

学校名等	ならやま園		平城園	
	人数	期 間	人数	期 間
近畿大学	2名	平成 28.7.11～15(5日間)		
	2名	平成 28.8.29～9.2(5日間)		
	1名	平成 28.9.5～9(5日間)		
	1名	平成 28.9.12～16(5日間)		
	1名	平成 28.9.19～23(5日間)		
	1名	平成 28.9.26～30(5日間)		
奈良県職員	17名	平成 28.6.23～7.1(8日間)	17名	平成 28.6.23～7.1(8日間)
介護労働安定センター	2名	平成 28.9.26～30(うち4日間)	2名	平成 28年 9.26～30(うち4日間)
平城中学	4名	平成 28.6.7～9(3日間)		
奈良東養護学校	1名	1年を通して随時		
奈良大学			3名	平成 28.7.11～15(5日間)
			3名	平成 28.9.5～9(5日間)
天理大学			2名	平成 28.8.1～5(5日間)
関西学研医療福祉 学院			2名	平成 28.5.16～6.8(17日間)
			2名	平成 28.9.29～10.28(20日間)
種智院大学			2名	平成 28.8.12～9.13(23日間)